越中アート大賞　　北日本新聞社長賞
「静寂」（平面）長谷川　桂子
ドローンの使用を思わせる高さからの視点が都市風景に新鮮な印象を与えると同時に、左側からの柔らかな街燈の光が冷たくなりがちなビル風景に抒情性を感じさせる。地味に見えるが新しい感性を感じさせる作品である。（総合審査員　菅谷　富夫）

優秀賞　　北日本新聞社賞
「高きを求めて」（立体）牧野　収
自宅から眺めることが出来る、立山連峰をイメージしている。鋭角の面に白の直線と谷の部分の曲線がバランス良く造形され、雄大な自然を表現した素晴らしい作品となった。

優秀賞　　富山県文化振興財団賞
「陵」（平面）松本　桃風
「陵」の淡墨作品。左右の墨の量を工夫し、バランスの変化に魅せられる。また偏と旁の線にも変化を持たせ、重厚なドッシリした偏、軽妙なスピード感のある旁と持てる力を十分発揮した作品である。

優秀賞　　富山県芸術文化協会賞
「斜線の造形」（平面）谷井　恵子
近代的で幾何学模様のガラス張り屋根の一部を切り取っているが、手前の茶色の梁の対角線が奥行感と視線を誘導している。上部の明るい部分と下部の暗い部分のバランスも良い。
抽象画としての完成度も高い作品である。

越中アート未来賞
「今を結ぶ」（立体）川内　将平
粉ガラスならではの繊細な表情と、淡く柔らかな透明感が魅力的な作品である。素材の特性を生かした造形に独自性が感じられ、今後のさらなる表現の発展と可能性に期待し、未来賞に選出した。

平　面

総評

今回から大きさに 2.5m 以内という制限が加わりましたが、バラエティ豊かで非常に巧みで繊細な表現が目立ち、個性豊かな作品が多く見られました。自由さが今までのアートフェスタより強く感じられます。

奨励賞

「古代の生きもの」	田中　志岳	「花－綾なす－」	宮本富美子
「光を育む場所」	西山　千晴	「千の花弁」	ろ　と　り
「○△□」	伊勢威知郎	「あちら　と　こちら」	ＳＨＩＯＮ
「清樽方満」	富田　一象	「蕾」	山崎眞理子
「嵐」	井村明日香	「「北国空」より」	田邉　竹綾
「丞」	髙尾　眞華	「残り柿」	島倉　　譲
「天地と地上の輝き」	杉田　一彦	「残光」	永森　一則

佳作

「ひかりふる」	宮前　夏実	「移ろい」	荒木　祐穂
「鎧のごとく」	丸山　　藍	「いろり端」	岡田　武良
「76×160mm の世界」	西部　健治	「泡沫の中」	財目　尚弥
「僕のシルフィード」	土井　達弥	「流れる刻の中で」	野中　桂子
「そこにあるもの」	濱谷　綾菜	「光とともに」	丸山　敦子
「時を超えて」	圓戸　　智	「無常」	永森　一則
「双龍ホタルイカ参上‼」	砂子　隆志	「風の音」	川﨑　淑子
「悠久の時」	綿屋　偵以	「明日に」	米田　英隆
「混沌とした世界」	梅澤　孝司	「百獣王の眼差し」	池田　満子
「清風入梧竹」	安田　和子	「夢心地」	安田　和央
「黄鶴楼前月華白此中忽見峨眉」	奥村　良江	「吹毛剣」	薬師　三智
「艶」	水島　大樹	「龍神」	野上　白嶺
「雲遥」	牧野　寿苑	「越中万葉のうた」	武田　礼子
「シダの森／太古の記憶」	寺松　裕史	「五人囃子晩秋」	金谷　與治
「眼差しの先」	寺松　峰岳	「TERRAIN VAGUE」	京角　真裕
「おわらの夕べ」	荒井　純一	「古都の絵巻」	片岸　明美

立　体

総評

本年も多様な素材を用いた作品が数多く出品されました。木、ガラス、陶、金属、布、紙、そして電気で動いたり光ったりする作品も見られ、越中アートフェスタならではの自由な表現や多様性が感じられました。今後益々、見る人の心を動かす作品を作っていただけることを望みます。

奨励賞

「縄目圧痕文環状瓶」	村井　正	「Form'26　-B-」	笠嶋富士幸
「風のゆくえ　水のねむり」	今福　琴美	「心躍る人たち」	桜中　美咲
「歩む」	若田　智史		

佳作

「山稜の彼方」	大坪　剛	「Black Box の中に？」	酒井　七海
「流線」	今関　華	「SR12」	小畔　美治
「見上げて（Looking Up）」	片山　雅子	「New World」	中杉　直美
「今日の空」	梅澤　孝司	「襟飾りの怪獣」	熊野　行人
「生」	山本　優空	「風神・雷神」	土屋　裕